

## まえがき

長崎県地学会は、昭和36年9月に、長崎大学佐藤隆夫教授を会長として発会した。その後10年の間順調な歩み続け、現在200名を超える会員を擁し、数々の足跡を残してきた。ついでには石井・鎌田両副会長を初め、本会の発起人や理事の方々の献身的な努力に負うところが大きく、その熱意に感謝の誠をささげたい。

さて長崎県は地質も複雑であり、また地下資源にも恵まれている。日本最初の銀山は対馬の佐須銀山で、現在対州鉱業所として稼働されていて、鉛、亜鉛鉱山としては日本第3位の位置を占めている。また、西彼杵半島の大串は、日本の鉱物の宝庫として古くから知られ、立派な標本を産出している。一方、西彼炭田は炭質にすぐれ、炭量も有望であり、原料炭として採掘されている。

このように地学的に恵まれた県内の60余の各地で、長崎県地学会の日曜巡検が行なわれてきた。その記録を、本地学会の創立10周年を記念して「長崎県の地学——日曜巡検ガイドブック——」として発刊することになった。この冊子が同好者の指針となり灯となることを期待し、さらにより良き冊子にしていくための研究が続けられることを願ってやまない。

昭和46年11月7日

長崎県地学会会長 一 瀬 亘

